

仕事  
の現場から

Vol.11

卒業生に  
お仕事についての喜びや、  
獨大生に向けてのメッセージを  
語っていただきます。

人工関節を通して、  
「まだ見ぬ笑顔」をつくる。



京セラ株式会社  
メディカル事業部  
オーソペディック東日本営業部  
いなば  
稲葉 大輝さん(14年営卒)

膝や股関節などの治療に使用する「人工関節」を扱う部署で、営業を担当しています。

関節が変形していたり慢性的な痛みがあったりという場合、人工関節に置き換えることで機能を回復し、痛みを取り除くことができます。ももとの関節と同じような構造をしています。その素材は金属やセラミック、ポリエチレン。部品の大きさや厚みにバ

リエーションがあり、組み合わせを変えられるようになっていきます。

患者の状態や治療にあたる医師の考えに合わせて提案し、製品が採用されれば、手術にも立ち会います。

手術中には、実際に使用する部品について医師から意見を求められることも。長く体内にあるものですから、わずかな違いがその後の生活に大きな影響をもたらす場合もあります。手術や製品についての本当の評価が定まるのは、10〜20年後です。だからこそ、現時点での自分の考えや提案がどんな根拠に基づいているのかを正確に伝え、医師の判断を助けることが、患者とそのご家族に対する責任だと思っています。

私にとつてのミッション・ステートメントは「まだ見ぬ笑顔をつくる」ということです。3年ほど前に転職し、医療の現場にいる医師や看護師を支えることで、たくさんの人たちを助け、さらに「手術に直接携わりたい」という希望もかなえることができました。今の仕事には、患者や医師の一人ひとりと深く関わり、治療に携わる医療スタッフの一員になれるところにやりがいを感じています。

新卒で就職した会社でも医療に携わることはできましたが、自分の思いと業務内容とのギャップが、だんだんと大きくなってしまいました。それに気づくきっかけになったのは、家族や友人たちとの対話でした。



一人ひとりの患者に合わせた製品を提案します。

自分が目標に向かってまっすぐ進んでいるかを、周囲の人とのコミュニケーションを通して確認する。このことを私はとても大切にしています。大学は、そんなに私に忌憚なくアドバイスしてくれる友人たちとの関係を培うことができる場所でした。

就職を前に業界や職種で悩む方も多いのではないかと思います。重要なのは「目標を達成するために何をするか」ということではないでしょうか。

好きなこと、これまでずっと続けてきたことが、必ず何かあるはず。それによって得られるものは何なのか、なぜ好きだと思えるのか。そんなふうに考えていくうちに、自分がどんな仕事に就きたいのか、<sup>おの</sup>まずと見えてくるのではないかと思います。

稲葉さんのある一日のタイムスケジュール

